

コムギ赤かび病防除薬剤のデオキシニバレノール低減効果

古川農業試験場

1 取り上げた理由

これまで、コムギ赤かび病の防除薬剤の効果については、発病程度でのみ評価されてきた。しかし、新たにデオキシニバレノール（DON）の暫定基準値（1.1ppm）が設けられたので、それぞれのDON濃度による評価、予防および治療効果について検討したところ、各種薬剤の効果程度といずれの薬剤も予防効果よりも治療効果が劣ることが明らかとなったので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) DON低減に対する効果は、チオファネートメチル水和剤、テブコナゾール水和剤、メトコナゾール水和剤で高かった（図1）。
- 2) 各種薬剤ともに、発病およびDON低減効果ともに、治療的效果よりも予防的效果が高かった（図1～4）。

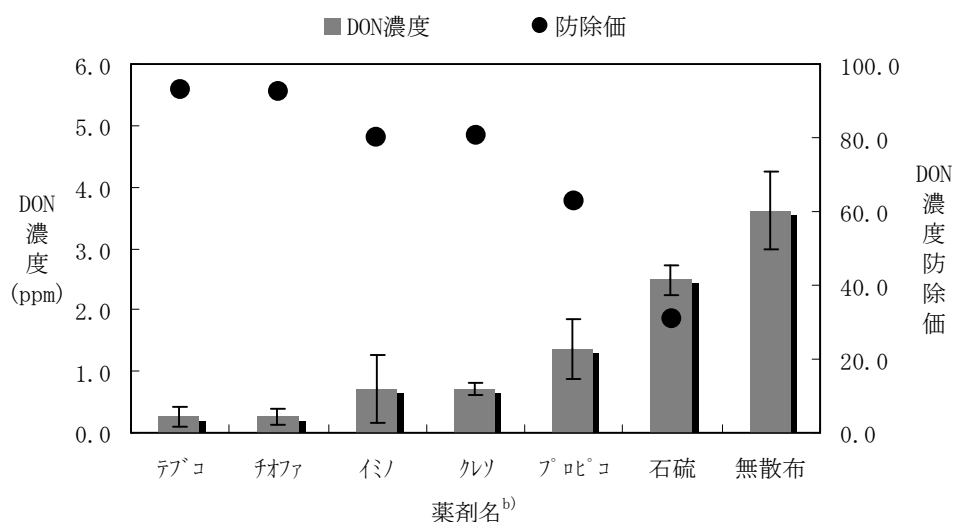


図1 各種薬剤のDON濃度に対する予防効果

a) 各薬剤を開花期に散布，その4日後に赤かび病菌を接種

b) テブコ：テブコナゾール水和剤2000倍液，チオファ：チオファネートメチル水和剤1000倍，イノ：イノキサジン酢酸塩液剤1000倍液，クロ：クロキシメチル水和剤2000倍液，プロビコ：プロビコナゾール乳剤1000倍液，石硫：石灰硫黄合剤50倍液

3 利活用の留意点

- 1) 本結果は、平成20年（赤かび病少発年），コムギ品種「ゆきちから」を用いた試験結果である。
- 2) 効果の高かったテブコナゾール剤はDMI剤であり，薬剤防除体系の中では，耐性菌の出現を避けるため同一系統薬剤の連用は避ける。
- 3) コムギの開花期は開花小穂率40～50%とした。
- 4) 赤かび病の薬剤防除については，「予防防除」が重要である。

（問い合わせ先：古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

ムギ類赤かび病回避のための防除技術の開発（平成16～20年度）

2) 参考データ

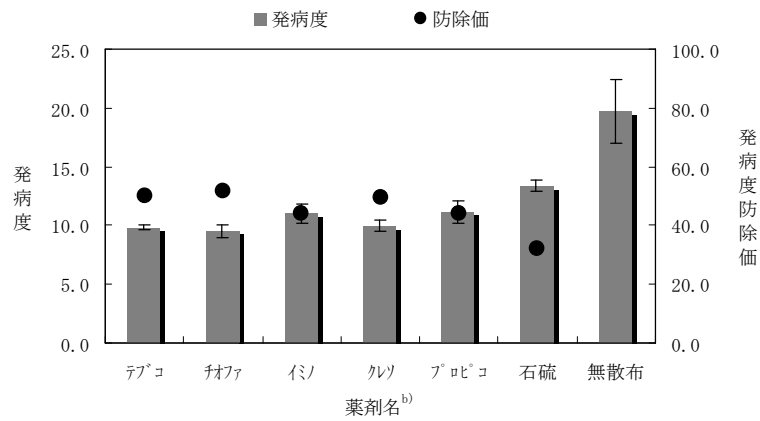


図2 各種薬剤の発病度に対する予防効果

a) 各薬剤を開花期に散布，その4日後に赤かび病菌を接種

b) テブコ：テブコナゾール水和剤2000倍液，チオファ：チオファネートメチル水和剤1000倍，イミノ：イミノクタン酢酸塩液剤1000倍液，クレソ：クレソキシムメチル水和剤2000倍液，プロビコ：プロビコナゾール乳剤1000倍液，石硫：石灰硫黄合剤50倍液

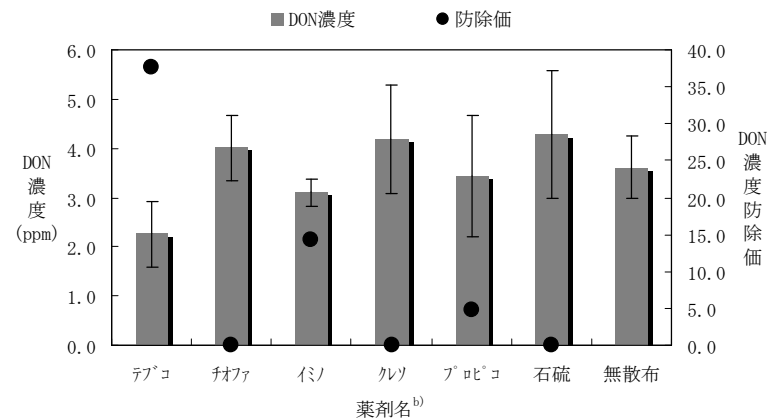


図3 各種薬剤のDON濃度に対する治療効果

a) 開花期に赤かび病菌を接種，その4日後に各薬剤を散布

b) テブコ：テブコナゾール水和剤2000倍液，チオファ：チオファネートメチル水和剤1000倍，イミノ：イミノクタン酢酸塩液剤1000倍液，クレソ：クレソキシムメチル水和剤2000倍液，プロビコ：プロビコナゾール乳剤1000倍液，石硫：石灰硫黄合剤50倍液

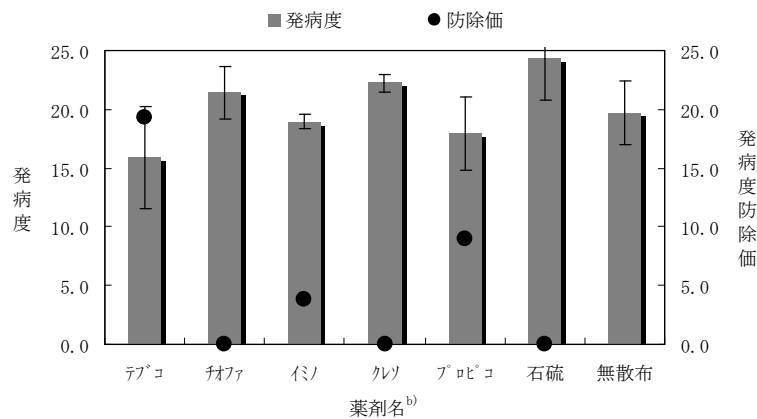


図4 各種薬剤の発病度に対する治療効果

a) 開花期に赤かび病菌を接種，その4日後に各薬剤を散布

b) テブコ：テブコナゾール水和剤2000倍液，チオファ：チオファネートメチル水和剤1000倍，イミノ：イミノクタン酢酸塩液剤1000倍液，クレソ：クレソキシムメチル水和剤2000倍液，プロビコ：プロビコナゾール乳剤1000倍液，石硫：石灰硫黄合剤50倍液

3) 発表論文等 特になし